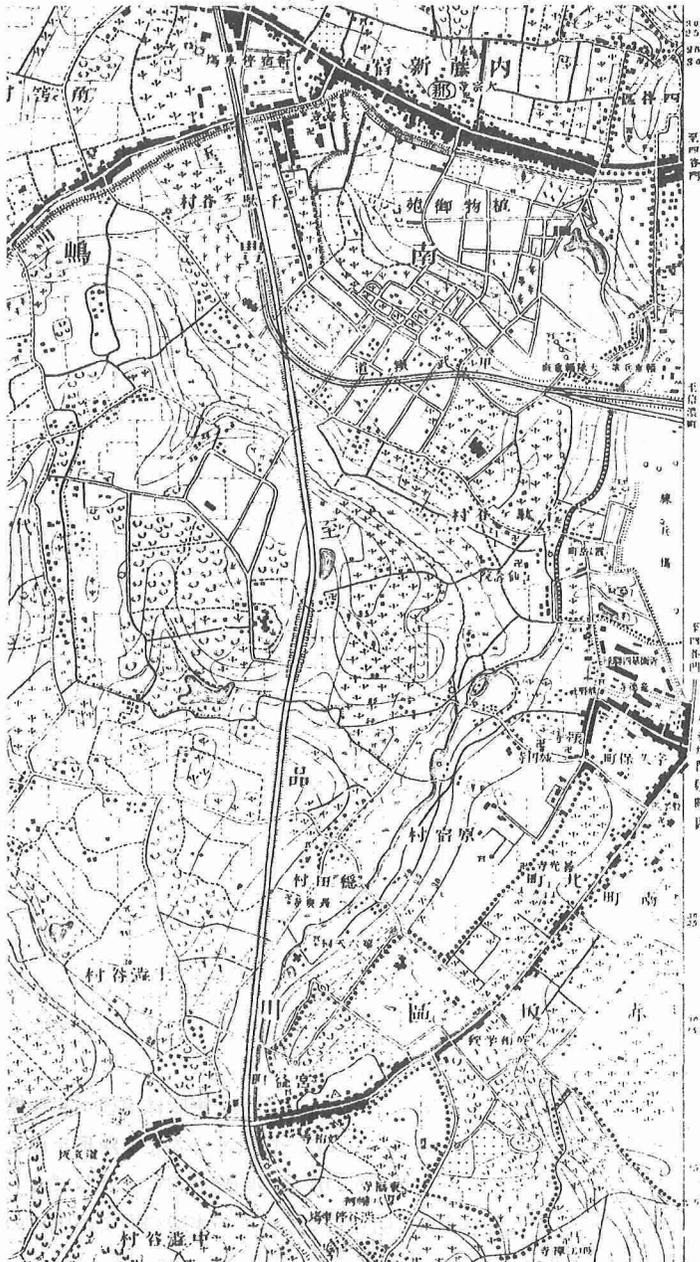


廣報

東京大学理学部

(題字は柴田雄次名誉教授)



目次

分光化学センターより		
藤原 鎮男	2	
素粒子物理学国際協力施設		
小柴 昌俊	2	
退職の御挨拶	吉野 誠治	7
吉野誠治事務長		
和田 靖	7	
吉野事務長		
杉森 政雄	8	
三輪 清氏	木原 太郎	9
万利乃寿満子さん		
浅田 敏	9	
岡本っちのさんの停年退職		
に際して	竹内 慶夫	9
三崎の貞さん	雨宮 昭南	11
<学部消息>		12~21

二万分の一迅速測図 西南の役を契機として、国内の詳細な地図の作成が始まり、2万分の1の縮尺で、関東・京阪神をはじめとする全国主要平野の地形図が作られた。しかし、この縮尺では財政負担に耐えられず、明治25年から、われわれになじみの深い5万分の1の地図に計画変更になった。図は、明治13年製、「内藤新宿」図幅。新宿停車場、渋谷停車場の文字が畑のなかにみえる。明治13年測量。

(S)

分光化学センターより

藤原 鎮 男

当センターの運営は当然のことながら運営委員会で議論し、基本方針、当面の計画、予算の執行などをきめてゆくのであるが、さらにその前段階で、こういう問題にどんな風に考えたらよいかをセンター発足当時島内センター長のもとに幹事をきめ、かなりの頻度で話し合うことにした。メンバーは島内氏のほか大木、黒田教授に藤原の計4名で化学教室の研究室にまずアンケートをおくり分光化学として考えられる研究テーマをおききし、また幹事の間で協議し、結局、レーザー科学、電子分光、高温系の分光などを当面のテーマに考えることとした。なお、その他のものとして分光システム、分光データベースなどもあげられた。ただし、昭和51年度は設定されて間もなく諸事匆忙の間に了ったので、具体的活動は昭和52年度に入ってからということになった。

そこで今年度に入ってあらためて運営の方針を運営委員会全体にはかり、きまったのが以下のようなことである。

すなわち、分光化学センターの事業としては設立当初の企画の通り、理学部全体の研究者のために分光の便宜をはかることはもちろんであり、また、これとやらんで、分光化学として最も高いレベルの研究を推進したい。ついては、後者を二つにわけ、当

面、上記の具体的テーマについて研究会をもち、実際の研究を進める。さらに理学部全体として分光化学センターの研究方向を考えるという視点で、分光化学シンポジウムをもつことにしよう。研究会はいわば、当面の研究に理学部の現在の叡智を導入したいということであり、後者は長期的視野で、理学部全体で分光化学センターの研究を考えて頂くという趣旨である。

前者に関連しては、幸い、昭和51年から理学部の特定研究としてレーザー科学が始まっているので、そのお世話役の物理教室の桑原教授に企画をお願いし、また、電子分光について化学教室の中に、田丸教授、黒田教授らのつよ研究グループがあるので、その辺のお話を願うことにした。また、センター専任の岩村助教授はかねてCIDNP(化学誘起核分極)法の我が邦の草分けで、特に最近この手法を使って新しい化学結合のくみかえを発見されておられるので、新物質の生誕につながる分光は、まさに分光化学センターの狙いでもあるので、同助教授にお話を願うこととした次第である。

以上のような方針で今後センターの活発な活動をはかりたく、各位の一層の御協力、御力添えを願う次第である。

素粒子物理学国際協力施設

小 柴 昌 俊

本年4月18日附の官報で当施設の設置が公知され昭和59年3月31日まで存続する事が明らかになりました。理学部の皆様の御援助の賜と関係者一同深く感謝して居ります。

この施設は昭和49年に設置された高エネルギー物理学実験施設が転換されて出来たもので、それ以前の経緯については前に理学部広報に2回に亘り(昭

和45年4月、及48年6月)述べましたので、ここでは前施設の設立以降について簡単に経過を御伝えたいと思います。

巨大科学の一つとして素粒子実験は規模が年々増大してきて、いづれは一国でまかなえる規模を越えてしまい、何らかの形で国際協力にまたねばならぬだろう事は明らかです。一方実験の面では国外の

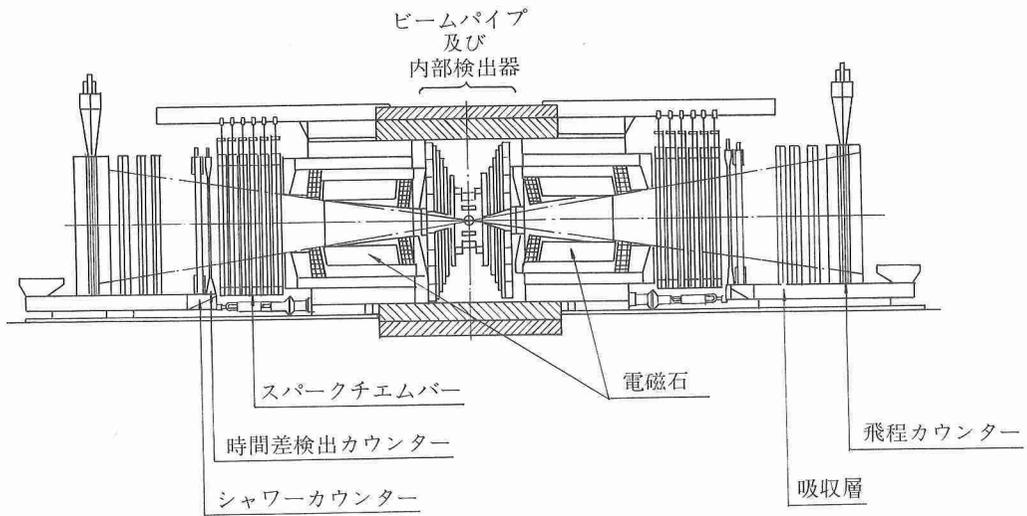


図 1 - a

実験に個人参加という形でしか参加した経験を持たない我が国の素粒子実験屋としては、何とかしてチームとしての国際協同実験の実績を作り、将来の更に国際化するであろう素粒子研究にそなえたというのが、ノボシビルスクとの協同研究、DESYとの協同研究を計画した私共の願いでした。

昭和47年12月準備費を以て参加したDESY(ドイツ電子シンクロトロン研究所)との協同研究は翌48年事業が正式に認められ、東大チームはDASP(Double Arm Spectrometer)実験に於て内部測定器系を担当する事になりました。図1-a, bを参照下さい。東京大学が設置、完成したシャワーカウンター及び多層チューブチェムバー(共に光子、電子のエネルギー、通過位置を測定)は、この実験の成果を得る上に極めて大きな役割りを果しました。即ち昭和49年秋より陰陽電子衝突実験を始めたDASPは、11月の米国に於ける新粒子 J/ψ に続いて ψ' の発見に、直ちに対応、12月にはこれらを追認すると共にその崩壊様式の測定に入りました。半年後、DASP協同実験は ψ' が単色の γ 線を出して新粒子 P_c に崩壊し、それが又 γ 線を出して ψ に崩壊する事を発見しました。更にその2ヶ月後には ψ が γ 線を出して新粒子 X に、そして X が2つの γ 線崩壊するのも発見しました。これらの γ 線を検出測

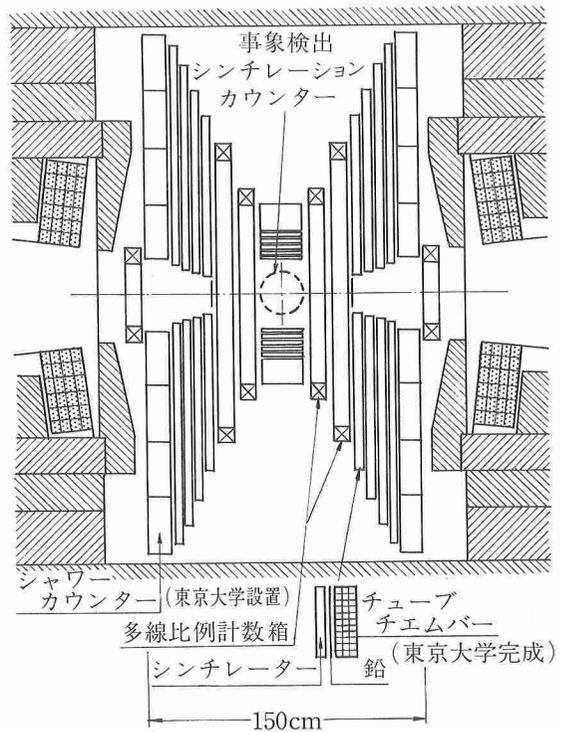


図 1 - b

定するのに東京大学は不可欠の寄与が出来たわけです。DASP実験はその後も引続き続行し2ヶ月に一つ位の感じで結果を発表してきましたが、翌51年7月には弱い相互作用で崩壊する新粒子の存在を発表

し、現在もデータを取り続けています。この新粒子はその後チャーム中間子として同定されたもの以外に重い軽粒子も入っているらしい事が分って素粒子物理学の最先端のテーマの一つとなっています。

さてStanford及DESYでのこれらの陰陽電子相互衝突実験の予期以上の成果をふまえてStanfordでは更にエネルギーの大きい150億電子ボルトづつの衝突装置PEPを作る計画を発表しましたし、DESYでも190億電子ボルトづつの陰陽電子相互衝突装置PETRA(Positronen Elektronen Tandem Ring Anlage) の計画を発表すると同時に、東京大学にもそれを用いた実験に本格的に乗り出して欲しいとの要請が行われました。この計画は昭和50年10月西独政府によって認められたので、これへの参加計画を物理学教室の関係諸先生等とも相談の上で昭和52年度概算要求として理学部に提出した次第です。

PETRAは昭和53年末に完成、54年早々相互衝突実験を4つ進行させる予定ですが、東京大学はその4つのうちの1つJADE(JAp an-Deu tch land-

England 協同実験)を行う事になります。JADEの実験装置を図2に示します。この中で東京大学の担当はlead glasと書いてある鉛ガラスチェレンコフ検出器(光子・電子のエネルギーを測定する)全部とdrift chamberとある内部荷電粒子検出器の電子回路の一部です。これらの費用の一部として52年度には8,294万円の物件費が認められまし、又当施設もこの実験のベースキャンプとして設置されたわけです。

写真1にDESYの全景が写っていますが、外側の白い円周を190億電子ボルトの電子と陽電子が逆向きに走り、4ヶ所の実験棟(4角の白点で示されている)の所で互に衝突するわけです。JADEが設置されるのは写真の右下の実験棟です。小さな小判形は現在DASP実験が進行しているDORIS相互衝突装置で、その左にある細長い建物には4億電子ボルトの線型加速器が入っています。これですぐ加速された電子又は陽電子は、まずDORISの上に見える電子シンクロトロンで20億電子ボルトまで加速され、一時DORISに貯えられます。充分な電流が貯えら

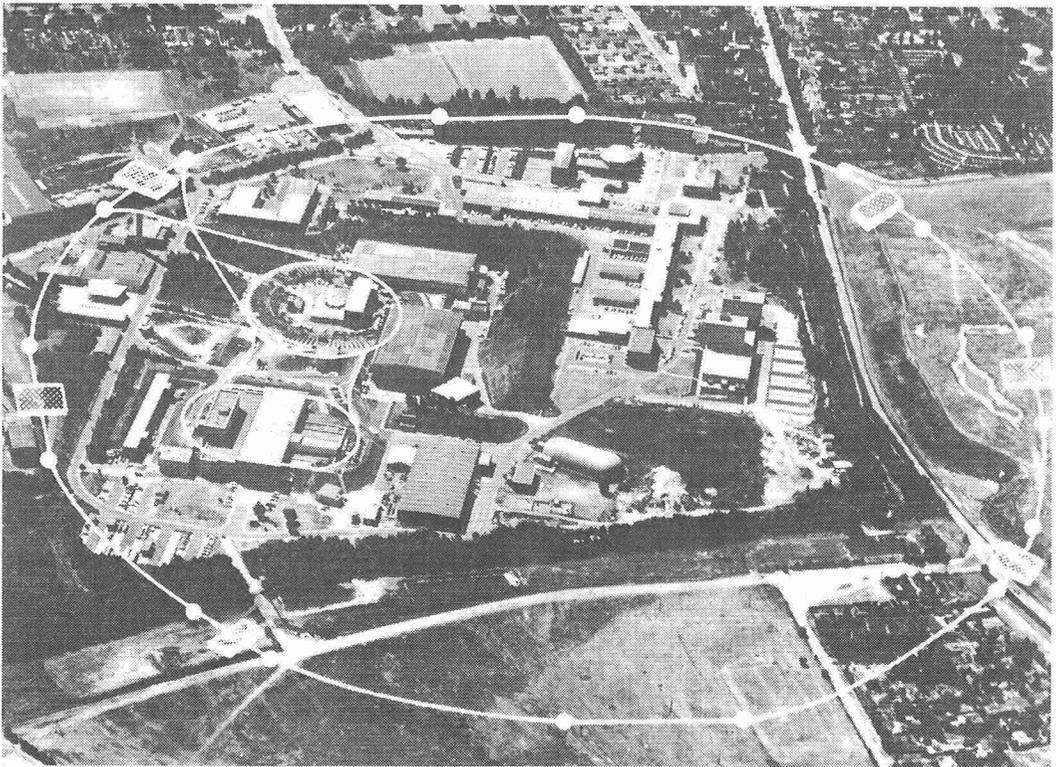
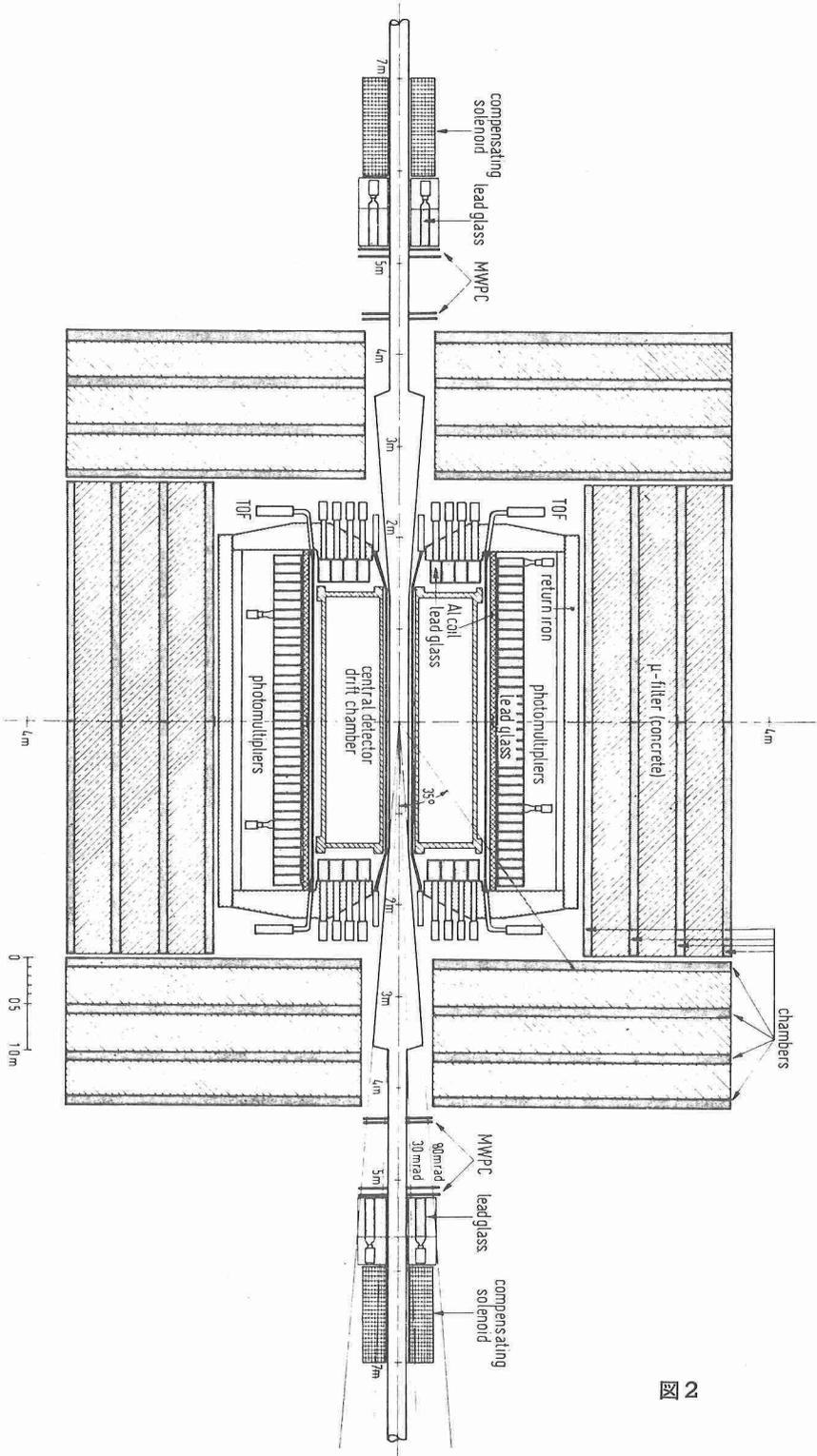


写真1



2

れると又電子シンクロトロンに戻されて今度は70億電子ボルトにまで加速され、外のPETRAリングに入射されます。これから190億電子ボルトまでの加速は写真の中央右と中央左にある(実験棟と同じく4角に白点)RF空洞によって行われます。

さて当施設の当面の目標は昭和53年秋までにJADE検出器を完成させて、54年早々から実験に入る事ですが、この目標達成の為に極めて限られた期限の他にも人員の問題、特に大学院学生の実験参加の実現やデータ解析の為に大型コンピュータの利用をどの様な形で実現するか等、幾つかの問題が残されて居ります。

私共ここ数年来国外での協同実験を遂行して来て痛切に感ずる事は若い世代の参加を如何にして実現するか、更にはより若い世代、修士及学部学生の実験的トレーニングをどの様にして実施するかを本気で考えねばならないという事です。この面に関しては今年度理学部からも計画が出ている様ですから、何とかその実現を願っています。

JADE実験は(1)新粒子(新しい種類のクォークに關係したもの、新しい軽粒子等)の発見、(2)量子電

磁力学の更に微細な時空領域での検証、(3)電磁相互作用と弱相互作用との干渉効果の検証、等を主たる実験目的として居ります。

DASPを始めた時の目標の様に、これらの実験目的のうちの幾つかが嬉しい驚きをもたらしてくれる事を希うものですが、この時点で少し将来への夢を述べさせて頂きたいと思います。

いづれにせよ実績を上げてから次の計画が初めて考慮され得るものですが、私共としては、ここ数年のうちに、(1)学部学生、大学院修士課程の学生に本格的実験のトレーニングを与え得る様な設備を理学部に設置する事、(2)私共の計画ばかりでなく他にも国際協同研究が実現して常時2乃至3位のプロジェクトが3~5年の期限で次々に実施される様な恒常施設としての“理学部基礎科学国際協力施設”の如きものを実現する事。これは理学部の小谷・久保構想の国際協力版としての部分的実現ともいえるでしょうが、夢はつきないものです。

終りにのぞみ、改めて理学部の皆様に感謝し今後とも御叱正御鞭達を御願ひする次第です。

退職の御挨拶

吉野 誠治（事務）

ながい間御世話になりましたが、この度6月30日付をもって退職することになりました。東大の停年までにはまだ1年近くありますが、なりよりも疲れたと云うのが退職の理由です。

今後のことにつきましては、今のところ何も決っておりません。当分ゆっくり静養して考えてみたいと思っております。

在職中なんとか大過なく勤務しえましたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

吉野 誠治 事務長

和田 靖（物理）

理学部事務長の吉野誠治さんは大正4年のお生れで、本来なら来春停年退職のところ、後進に道を開くために、この6月末に退職されるとの事である。吉野さんは昭和9年に東京帝国大学庶務課に勤務され、昭和16年の末に理学部へ来られた。それから戦争末期の20年5月から終戦まで横須賀海兵団に入隊された外は、ずっと理学部に勤められ、38年7月から事務長として現在に至っている。当時は渡辺武男先生が4月に学部長になられたばかりの時に、その後弥永昌吉、藤井隆、久保亮五、小平邦彦、植村泰忠、田丸謙二諸先生の七代の学部長をたすけて、14年間理学部運営の責任を果して来られた。こうしてみると吉野さんの事務長時代は、藤井学部長のとき始まった大学紛争が大きな事件であったことが判る。私も一時期幹事会の一員として毎日のように学部長室に出入りし、吉野さんに変なお世話になったものである。あのころの幹事会はむやみと忙しく、半年の任期が終わったときの解散コンパだけを楽しみにして毎日を送っていた。会合が夜おそくなることも多かったが、吉野さんと学部長秘書をしていた大山さんは嫌な顔もせずよく付き合ってくれた。そのことが味気ない当時の日常にどんなに力になったか測り知れない。たまに学部長室の留守番でなすこともな

くぼんやりしているときは、吉野さんの話を聞くのは楽しみの一つであった。大学の昔話から始まって、色々な人の噂話、さては退職金の計算法まで話題は千変万化して飽きない。話題が豊富なのも理由があって、吉野さんは大変な趣味人であって芸能関係の友人も多くお持ちとのことである。海兵団時代の友人にそのような方が多かつたとかであるが、御自分のことは、あまりお話にならない方なので詳しくは存じ上げない。吉野さんは又大変几帳面な方である。特に学部職員の履歴はよく記憶していて、その待遇に手落ちがないように常に心掛けておられた。これは労務管理上大切な点の一つであるが、私は最近他の所でこの点に手違いがあったため大変苦労した例を知って、吉野さんの存在の大きさを改めて認識した。又吉野さんは毎日日記をつけておられるとの事である。長年の日記が製本されて保存されているというのも几帳面な御性格によるものであろう。東大に43年間在職されたことを考えると、まことに生きた百年史であると云える。理学部教職員の人物評もあるであろうから、ちょっと空恐しい気がしないでもない。このような吉野さんをして、ちょっと緊張させるのは月一回の理職との交渉である。交渉というのはその性質上必ずしも上品な雰囲気ばかりでは

ないし、事務に関係した問題は吉野さんが答える立場であり、交渉のはじめから、後での記録作りまで細かく神経を使っておられた。理学部内での労務に関する問題が大筋でうまく行っているのも、各学部長評議員の御努力に加えて吉野さんの緊張のおかげでもあろう。

このようにして長かった半年の任期を終えて、我々の幹事会は日光で解散コンパを行った。久保学部長御夫妻、吉野さん、佐々木巨幹事長以下幹事全員

が参加した。一電車遅れて来た天文の堀さんが嬉しそうに盃をあげたときの顔、そう簡単に“解散”という訳には行かない久保先生と吉野さんのちょっと複雑な顔などを今でも思い出す。当時は辛かったが、今となればなつかしい経験であった。そして今、紛争も含めて色々な御苦労に長い間耐えて来られた吉野さんが理学部を去ろうとしておられる。いつまでもお元気で、お仕事に興味の道に精進されますことを祈って止まない。

吉 野 事 務 長

杉 森 政 雄 （事務）

吉野事務長は明年4月1日の定年を待たずに、6月30日付で退職されることになりました。今事務長に去られることは事務室にとって大きな痛手で、できることなら定年まで留まれるようお引止めしたい気持ですが、今となってはどうしてもならず残念です。

吉野事務長は大正4年のお生れで、本年4月1日で満62才にられました。昭和9年横浜市立横浜商業専門学校をご卒業後、東京府の東大庶務課派遣員を経て、昭和10年4月東大庶務課に入られました。昭和16年12月庶務掛長として理学部に移ってこられ、昭和38年7月に田坂前事務長の跡を継いで事務長になられて今日に至りました。

戦中、戦後の混乱を経て今日まで36年余の長い間理学部に尽してこられ、その間定めしご苦勞も多かったことと思われます。

事務長は長いご経験に加えて強い記憶力を持っておられ、古いことをよくご存知で理学部の生字引のような方であることはよく知られておるところです。このことだけでも理学部にとって掛替えのない貴重な方を失うこととなります。

事務長は、滅多に冗談を言うことがなく、また笑顔を作ることも余りされない方で、一見堅さ一方のような感じを受けますが、実際は話好きな、さばけ

たところの多分にある方で旅行会や忘年会、その他折々の事務室の催しや会合にはいつも参加されて皆などと一緒によく飲み、よく喋り、乞われて唄うこともたびたびありました。

また映画、演劇がお好きで、一廉の鑑賞眼をお持ちであり、その世界の有名人とのお附合いの多いことはよく知られております。その外にも色々なご趣味をお持ちであることは聞いておりますが詳しいことは分かりません。

事務長の退職される日を二旬後に控え、今非常な淋しさを覚えております。大事な柱を失う思いです。定年まで………と願っても今となってはどうしてもならないことで、今はただ、事務長の今後のご健勝とご活躍を心からお祈りするばかりです。

三輪 清 氏

木原 太郎 (物理)

物理教室の事務主任三輪清氏は、この4月1日に停年退職されました。氏は明治45年2月10日生れ、少年時代を水戸で過した後、昭和5年に就職のため東京へ出てきました。昭和17年10月に臨時召集を受け、昭和21年5月に復員し、その年の11月に東京大学に就職、当時の厚生部、後の学生部に勤務することになりました。そして、昭和39年1月から理学部物理学教室の事務主任として働いてもらったわけで

す。大学の本部で17年餘、物理教室で13年餘仕事をして来たことになります。

三輪氏はまことに温厚篤実な人物で、自分でもまめに動き、事務室でのスムーズな仕事のはこびは氏のこの性格によるところが大でした。昔はスポーツをやりましたが、今は野球やサッカーの見物が好き、とのこと。お子様も独立し、いまは奥さんと二人で葛飾区にお住いです。

万利乃寿満子さん

浅田 敏 (地球物理)

万利乃さんは今から37年前に地球物理学教室にこられました。ですから教室の誰よりもふるくから居られたわけです。当時はいつも和服を着て居たそうです。はじめは河角先生の部屋で数値計算をして居られました。朝9時から昼休を除いて夕方5時すぎまでタイガー計算機の音をきいてくらししていたわけです。

入試の時には受験生を口答試問の室に1人ずつよび出す役もしていました。したがって、今地物教室にいるふるい人達は大きい彼女によび出されたわけです。

しかし万利乃さんは受験生をよび出すのが仕事ではなく、本当は名のおった歌人なのです。歌集もいく冊か出されており、有名な賞ももらって居られます。

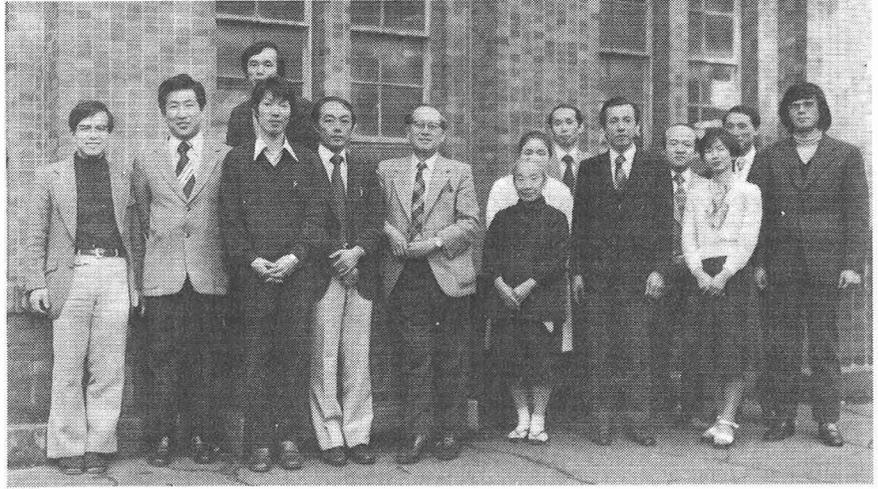
今は川崎市郊外に居をかまえられ、百人のうたのお弟子さんの相手をして居られます。万利乃さんの本領が発揮されるのは、むしろ定年後の人生でしょう。万利乃さんは、又水泳の名手で二食の下のプールで1時間およぎつづけるのはなんでもなかったのです。これからも益々お元気にすごしになれることと思います。

岡本つちのさんの停年退職に際して

竹内 慶夫 (鉱物)

3月12日の岡本さんの誕生日を選んで、吾々が3月に停年退職される岡本さんの送別会を計画した所、頑として辞退されどうしても承諾を得ることが出来なかった。そこで2週間程経てから3時のお茶の時間後、吾々はひそかに待機して、午後の郵便物を抱

えて来た岡本さんをつかまえささやかな記念品の“贈呈式”を行った。昭和34年4月から鉱物学教室の用務員として吾々のために勤めて下さった長年の御苦労に対して謝辞を述べ始めると、岡本さんは激しくテーブルの上に顔を伏せた。「私って泣虫だか



教室の職員に囲まれた岡本さん（中央、定永教授の右）

ら」と云いながら、やがて顔を上げた岡本さんは、からりと何時もの態度でひとしきり昔の思い出話に花を咲かせた。その時の岡本さんの姿の中に、私は岡本さんの人となりについてすべてを見る思いがした。

口数の少いさっぱりしたおばさんであるが、口を開らくと快活で、話の筋は明晰、しかも歯切れがすこぶる良い。群馬県で生れるとすぐ東京へ連れて来られたと云うので、いわば“上州生れの江戸育ち”歯切れの悪いはずがない。その小柄な体は誠実で、曲ったことは大嫌いという文字通りの太い筋金入りである。従って、今まで安心してすべての用務を岡本さんにまかせ切りをしていた吾々自身に今にして気が付く次第で、このような貴重な人物を送るにしのびない思いであった。教室全員が恐らく同じ思いであったのであろう。職員達が記念品を贈るといふ話が伝わると、院生達もこぞって謝意を表わす別の計画をたてた。

特筆しなければならないのは、岡本さんが健康の固りのような人であったことである。18年間の長い間、1日も休んだことがない。毎朝きっかり7時半には時計の針のように理学部2号館の玄関には岡本さんの姿があった。ストライキ中で休める日でも、家を早目に出て徒歩で出勤し、教室に姿を見せる時間に狂いがなかった。世が世ならば講談の出しものにもなりかねない所である。

このような人柄にふさわしく、岡本さんは子供さん達にもめぐまれている。三人の息子さんと、一人の娘さんが居り、それぞれ独立して家庭をもち立派に活らしておられる。岡本さん自身は一人の下宿住いで、日曜日には子供さん達の家を廻り、庭に花を咲かせ、植木の手入れを楽しんだと聞いている。また、昨今は野球を覚えてテレビの野球放送は必ず見て熱狂しているという噂も耳にしている。

東大の退職が決ると、各方面から仕事の誘いが殺到したけれども、はじめからの予定通り、長野県に住む息子さん一家からの誘いに応じて、岡本さん自身の表現をつかうと「きれいな空気の中で、これからの余生を静かに過す」ことに決められた。大変幸福な人だ。吾々にとってかえすがえすも残念だったのは、新しく出来た理学部五号館の中で、教室として始めて持った専用の用務員室を岡本さんに使ってもらえなかったことである。今まで通りいつまでも長く健康であることを祈りながら、最後にもう一言つけ加えておこう、「岡本さんは職を去っても吾々の教室に貢献している。なぜならば、すばらしい後任を推薦してくれたから」。

三 崎 の 寅 さ ん

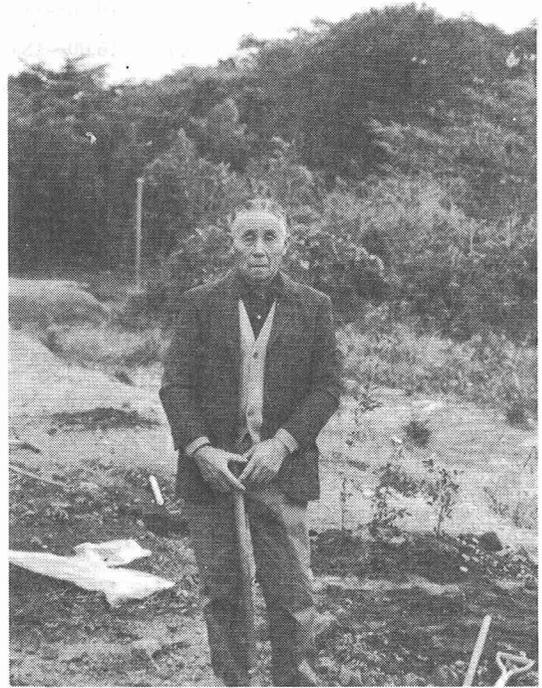
雨 宮 昭 南 (臨海)

関本貞治氏(みんな、貞さんと呼んできた)は、今年の4月1日付で、臨海実験所技官を停年で辞められた。昭和11年以来、40年余りの間、ひたすら実験所の為に尽していただき、本当にありがとうと、お礼を申しあげたい。

貞さんの仕事は、技官として、研究用の生物を採集することであった。ここ三崎周辺の海は、貞さんにとっては、自分の庭のようなものであり、頼まれた海産動物で、とってこれぬものはおよそなかった。採集の依頼があると、和船で沖にこいでいき、先端にカギのついた、長い竹ざおと、のぞきめがねを使って、生き物をひっかけてとってくるのが常であった。貞さん独特の採集法はいろいろあったが、なかでもおもしろかったのは、ゴンズイ(ナマズのなかま)の採り方であった。ゴンズイを使いたいと頼むと、「ん……む……。」と言ったきり、動くとはしない。採ってくれないのではなからうかと心配していると、帰る頃になって、やおら、カジメ(海藻の一種)を、縄でたばねはじめたのである。そして、その日は、たばねたカジメを餌もつけずに、実験所の棧橋から、海底におろして帰ってしまう。翌朝、たばねたカジメを海からあげれば、ゴンズイの大きいのは、ちゃあんとカジメの束の中に入っているのであった。貞さんが、動物の習性を利用して捕らえたものは、その他にも、ウミホタルやコーレイボヤがあった。

貞さんは、初代採集技官の熊さん(青木熊吉氏—明治・大正にかけて勤務し、長者貝=オキナエビスの名付親として名高い)、二代目の重さん(出口重次郎氏—採集技官として尽した功績により、黄綬褒章を贈られた)のあとを継いで、よく、その伝統をまもり、二名の後進(鈴木英雄技官、関本実技官)を育てられた。関本実技官は、貞さんの三男であって、父君と同じ道を現在歩んでいる。

貞さんは、寡黙で、真面目一筋な人となりで、海に生きる人に似合わず、酒はたしなまず、コツコツ



「貞さんの松」
新宿舎の落成にあたり記念植樹をする
関本貞治氏

と働くことを特に好まれた。仕事の対象が、海と生き物であるために、勤務が早朝から深夜に及ぶことも度々であったが、黙々とよく頑張って下さった。

退官にあたり、有志の者で貞さんに記念品を贈って、その労をねぎらおうとしたときに、実験所内外から、それに応ずる人が相つき、その数、120名の多きに及んだのも、貞さんの人徳をうかがわせるものであろう。

これからは、自分の船で、海にでて漁をしながら、第2の人生をおくられるとのこと、つつがなく過していただきたい。

<学部消息>

4月理学部会合日誌

4月8日(金)	主任会議	15.00~17.00
" 11日(月)	理系委員会	15.00~16.30
" 13日(水)	人事委員会	10.30~11.30
" " "	企画委員会	16.00~18.00
" 19日(火)	会計委員会	14.00~17.00
" " "	教務委員会	13.30~15.30
" 25日(月)	理職定例交渉	0.30~13.30
" " "	企画委員会	16.00~18.00
" 27日(水)	教授会	13.30~17.00

5月理学部会合日誌

5月6日(金)	放射線管理委員会	10.30~12.00
" 7日(月)	理系委員会	15.00~16.30
" 11日(水)	教務委員会	13.30~15.30
" 12日(木)	主任会議	12.00~13.00
" 18日(水)	教授会	13.30~15.15
" 23日(月)	企画委員会	16.00~18.00

教授会メモ

4月27日(水) 定例教授会

1. 前回議事録承認
2. 人事異動等報告
3. 学生の転学科について
4. 学生の転課程について
5. 学生の休学について
6. 研究生の研究期間延長並びに入学について
7. 受託研究生の受入れについて
8. 私学研修員の受入れについて
9. 昭和52年度教職免許教科に関する専門科目の単位として認定される理学部専門科目の一部改正について
10. 素粒子物理学国際協力施設規程について
11. 企画委員会報告

12. 人事委員会報告
13. 会計委員会報告
14. 教務委員会報告
15. 入試制度検討委員会報告
16. 分光化学センター報告

5月18日(水) 定例教授会

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 受託研究員の受入れについて
4. 寄附受入れについて
5. 教務委員会報告
6. その他

教室主任等名簿

数	学	教室	服	部	晶	夫	教授	地球物理学	教室	岸	保	勘	三郎	教授
情	報	科	後	藤	英	一	"	化	"	大	木	道	則	"
物	理	学	桑	原	五	郎	"	生	物	野	田	春	彦	"
天	文	学	海	野	和	三郎	"	動	物	江	上	信	雄	"

52.4.1 現在

植 物 学 教室	佐 伯 敏 郎 教授	臨 海 実 験 所	寺 山 宏 教授
人 類 学 "	埴 原 和 郎 "	植 物 園	古 谷 雅 樹 "
地 質 学 "	花 井 哲 郎 "	地 球 物 理 研 究 施 設	福 島 直 "
鉍 物 学 "	竹 内 慶 夫 "	素 粒 子 物 理 学 国 際 協 力 施 設	小 柴 昌 俊 "
地 理 学 "	佐 藤 久 "	分 光 化 学 セ ン タ ー	藤 原 鎮 男 "

人 事 異 動

〔講師以上〕

所属	官職	氏 名	発令年月日	異 動 内 容	備 考
生 化	助教授	田 隅 三 生	52. 4. 1	教育職(→)1等級(東京大学教授理学部)に昇任させる	化学教室へ所属変更
物 理	講 師	釜 江 常 好	52. 4. 1	教育職(→)2等級(東京大学助教授理学部)に昇任させる	

〔助手〕

所属	官職	氏 名	発令年月日	異 動 内 容	備 考
植 物		山 登 一 郎	52. 5. 1	助手に採用	
物 理	助 手	藤 井 哲 文	52. 5. 1	助手に配置換	原子核研究所から
地 質	助 手	藤 井 敏 嗣	52. 5. 9	復 職	

4 月 海 外 渡 航 者

所属	官職	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 期 間	渡 航 目 的
地 球	教 授	浅 田 敏	ル ー マ ニ ア	4. 8 ~ 4. 28	地震被害対策の研究調査
地 球	教 授	岸 保 勘 三 郎	ス ウ ェ ー デ ン	4. 12 ~ 4. 24	第3回JOC会議及びEGGE計画研究会議出席
化 学	教 授	田 丸 謙 二	ソビエト連邦共和国	4. 15 ~ 4. 22	触媒作用に関する記念シンポジウム出席
化 学	助 教 授	荒 田 洋 治	ア メ リ カ 合 衆 国	4. 8 ~ 5. 2	第18回核磁気共鳴会議出席及び研究連絡
生 化	助 手	大 野 哮 司	ス イ ス	4. 1 ~ 3. 31	真核細胞における特異遺伝子の発現と制御に関する研究
地 質	助 手	堀 越 毅	カ ナ ダ ア メ リ カ 合 衆 国	4. 24 ~ 6. 23	カナダ地質学会出席および黒鉍型鉍床の成因研究

5 月 海 外 渡 航 者

所属	官職	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 期 間	渡 航 目 的
数 学	教 授	藤 田 宏	マ レ ー シ ア シ ン ガ ポ ー ル	5. 1 ~ 5. 13	数値解析と情報科学の地域国際研究会出席及び研究連絡

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
化学	教授	黒田晴雄	ポーランド 連合王国 フランス	5.7～5.30	有機結晶の物性に関する研究
地質	教授	飯山敏道	フランス	5.8～5.21	元素の起源と分布に関する第2回国際シンポジウム出席及び研究連絡
人類	教授	渡辺直経	インドネシア	5.18～5.28	ジャワ化石人類遺跡調査に関する国際学術協力事業計画のための研究連絡
化学	教授	藤原鎮男	カナダ アメリカ合衆国	5.20～5.28	第6回磁気共鳴国際会議出席
物理	教授	有馬朗人	イタリア オランダ アメリカ合衆国	5.28～6.21	中重核構造国際会議及び第4回超微細構造国際会議出席及び研究連絡
物理	助教授	鈴木増雄	カナダ アメリカ合衆国	5.1～11.30	統計物理学の研究
情報	助教授	国井利泰	カナダ アメリカ合衆国	5.7～8.31	1977年国際情報処理学連合会議出席及び高度データ管理に関する研究
物理	助教授	一丸節夫	アメリカ合衆国	5.30～9.14	プラズマ天体物理学における諸問題：パルサー，X線星，超新星等の研究及び強二重星プラズマに関するNATO高等学術研究会出席
化学	講師	脇田宏	中華人民共和国	5.16～6.7	地震予知研究
化学	講師	池本勲	カナダ アメリカ合衆国	5.26～6.17	第8回分子性結晶シンポジウム及び「低次元素材料の合成と性質」に関する国際会議出席及び研究連絡
化学	助手	梅沢喜夫	アメリカ合衆国	5.12～5.22	日米科学セミナー「電極反応の速度論，触媒作用及び光増感効果に関する最近の進歩」出席および化学に関する研究連絡のため
物理	助手	松瀬文浩	フランス ドイツ連邦共和国 ユーゴスラビア	5.16～7.30	「重イオン核反応の共鳴」国際会議出席および重イオン核反応の研究
物理	助手	戸塚洋二	ドイツ連邦共和国	5.19～5.29	ペトラ共同実験の打合せ
化学	助手	近藤保	フランス	5.20～6.1	グラファイト層間化合物に関する国際会議出席および研究連絡
生化	助手	稲垣冬彦	連合王国 スイス	5.28～6.16	生体物質の磁気共鳴に関する研究連絡のため

理 学 部 卒 業 者

昭和52年3月28日(239名)

【数 学 科】 46名

佐藤 修, 中島 廣紀, 三浦 敏幸, 安永 雅俊, 池森 俊文, 小川 淑人, 方波見紀子, 金子 譲一
 河野 年洋, 川島 繁俊, 木下 通宏, 熊本 哲郎, 小林 隆夫, 佐々木久郎, 下條 武英, 丸山 弘通
 宮本 良磨, 吉岡 朗, 伊藤 英治, 稲村 晃郎, 井上 博史, 小野 隆志, 大阿久俊則, 大石 圭太
 大内 修, 逢坂 範彦, 岡本 政人, 上村 豊, 古関 春隆, 小和口 恒, 佐藤 篤之, 笹野 一洋
 杉田 伸樹, 中根 静男, 成瀬 弘, 秦 夏子, 花岡 靖子, 林 聖子, 日名 龍夫, 二木 昭人
 益本 洋, 三枝 邦男, 村瀬 篤, 山本 健二, 渡邊 浩, 本田 一治

【物 理 学 科】 69名

伊東 雅宏, 崎山 雅行, 清水 和哉, 高瀬 弘, 伊藤 学, 植村 泰朋, 小川雄二郎, 大森 聰
楠本 淑郎, 児玉 直樹, 佐久間嘉一郎, 篠田文博, 柴田 五雄, 下園幸一郎, 杉谷 道朗, 坪口 功
遠山 満, 中山 泉, 比嘉 清秀, 古野 泰二, 箕輪 達哉, 村上 紀佐, 村山 邦裕, 梁井 健一
阿部 修治, 井坂 光明, 伊藤 裕, 井上 恒一, 今城 忍, 小野 清志, 小野 宏哉, 小野 裕美
大久保清貴, 太田 信義, 大野 隆央, 加藤 弘一, 川村 光, 久世 宏明, 久野 良孝, 栗原 享
河野 公俊, 佐藤 友一, 佐藤 春行, 坂元 真一, 坂本 政道, 清水 史也, 島 信幸, 辛 埴
陶山 明, 高木 滋, 高野 宏, 武田 恒明, 谷野 浩史, 谷本 俊郎, 近間 輝美, 鉄尾 佳司
富永 正弘, 鳥居 敏彦, 中川 正樹, 西森 秀総, 野崎 光昭, 深川 洋一, 藤井 郁子, 藤井 良治
藤部 文昭, 舛谷 敬一, 丸山 佳子, 山岸 秀永, 山口 栄一

【天 文 学 科】 7名

村尾竜之介, 川上 肇, 露木 義, 野口 正史, 福島登志夫, 最上 聰, 吉田 春夫

【地球物理学科】 17名

鈴木 孝典, 戸田いづみ, 石川 雄一, 小川 正明, 轡田 邦夫, 近藤 裕昭, 佐々木達也, 佐野 雅之
柴山 秀博, 島田 誠一, 下山 明, 綱川 秀夫, 西出 則武, 松原 幸夫, 室岡 正, 柳沢 正久
米村 公江

【化 学 科】 42名

伊藤 真人, 市村 知子, 一本松正道, 今西雄一郎, 岩田 泰夫, 内丸 忠文, 尾崎 裕, 小野 祥子
数井 正己, 日下 卓久, 黒田 智明, 小林 明洋, 小林 憲正, 小堀 良浩, 後藤 成人, 佐藤 佳晴
佐藤 良幸, 坂巻 義孝, 田川 順一, 高橋 誠, 辻 尚志, 寺田 春郎, 寺部 真人, 中田 宗隆
永井 恵, 永田 敬, 西田 昌司, 西原 寛, 西松 重義, 長谷川卓志, 原田 知子, 藤原 茂樹
古屋 和彦, 堀井 明, 榎野 克美, 見上 晃, 葉袋 佳孝, 山口 雅彦, 山本 陽介, 横山 昌典
吉野 宏, 渡辺 浩介

【生物化学科】 17名

加藤 裕志, 片山 啓, 蔵本 悦郎, 遠藤斗志也, 大沼 純子, 柿谷 均, 倉持 隆雄, 小泉 典秋
酒井 一夫, 柴田 康行, 中野 寿彦, 長洲 毅志, 長谷川正代, 早瀬 哲郎, 福田 恵, 安田 年博
渡辺 敬介

【生物学科(動物学)】 9名

雨宮 俊彦, 石井 直方, 酒泉 満, 白山 義久, 館 直彦, 原藤 光, 松本えみ子, 山上 司
玉置 昭夫

【生物学科(植物学)】 7名

大田 雅和, 清水 英幸, 椎野 孝雄, 鈴木 淳子, 竹田 和義, 福田 裕穂, 宮田 満

【生物学科(人類学)】 4名

深沢 毅, 須貝 勝平, 徳永 勝士, 山田 格

【地学科(地質学, 鉱物学)】14名

青山 茂雄, 内田 雅大, 池原 厚志, 石黒光治郎, 奥山 俊一, 郷原 信郎, 齋藤 茂幸, 福島 竜朗
前川 寛和, 松居誠一郎, 松岡 克己, 村田 明広, 森 寛志, 山峯 謙一

【地学科(地理学)】7名

倉田 孝一, 槻谷 俊文, 浜野 正男, 岩崎 一孝, 奥野 裕志, 外山 秀之, 仲野 徹

大学院理学系研究科修士課程修了者

昭和52年3月29日(201名)

【数 学】17名

青木 茂, 阿部 雄二, 岩宮 敏幸, 梅本 和義, 加藤 和也, 川又雄二郎, 木下 俊之, 清田 正夫
金 永淑, 倉本 義之, 対馬 竜司, 飛田 英利, 乗松 芳樹, 橋本喜一郎, 真島 秀行, 百瀬 文之
渡辺 弘之

【物 理 学】54名

荒井 邦博, 荒木 俊, 有光 敏彦, 安藤 知史, 碓 寛, 石井 克哉, 市村 淳, 井下 猛
宇佐美 寛, 遠藤 道夫, 生出 勝宣, 大串 幹夫, 大嶋 英一, 岡 真, 加藤 潔, 金山 敏彦
北川 年一, 木村 能章, 金 信弘, 窪田 高弘, 小池 洋二, 小林 俊雄, 小林 伸好, 篠塚 雄三
鈴木 直仁, 瀬尾 幸市, 鷹箸 継典, 田中 二郎, 玉木 久夫, 田原 謙, 鄭 勝公, 戸沢 洋二
中川 憲夫, 中里 和郎, 中野 昇, 中村 春木, 中村 幸男, 西岡 泰城, 野田 悦夫, 橋本 操
浜名 卓, 原田 実, 飛田 和男, 檜尾 守昭, 福井 泰雄, 星 紀行, 益子耕一郎, 松居 哲生
松川 尚弘, 松島 房和, 松葉 育雄, 宮内 則雄, 柳沢 千明, 山本 昌

【天 文 学】6名

浮田 信治, 尾中 敬, 竹内 厚人, 長井 嗣信, 蜂巢 泉, 渡辺 鉄哉

【地 球 物 理 学】14名

池田 慎, 鍵山 恒臣, 加藤 照之, 座間 信作, 瀬野 徹三, 谷口 治幸, 中沢 哲夫, 中村 晃三
新野 宏, 花田 英夫, 浜 真一, 林 隆也, 堀江 晶子, 三浦 秀夫

【化 学】42名

合川 幸子, 青山 隆, 井口 雅章, 石川 俊一, 和泉 儀一, 今井 登, 今関 周治, 大岡 正治
大柳 宏之, 小川桂一郎, 沖山 京子, 尾中 篤, 小原 義夫, 勝又 宏, 工藤 昭英, 嶋貫 祐次
白石 寛明, 菅原 洋子, 杉本 弥生, 砂川 和彦, 高木 真紀, 竹村 謙一, 塚田 秀行, 堤 孝義
永井 尚生, 中川 邦明, 永野 修, 中村 泰男, 沼田 祐一, 林 繁信, 藤島 瞳, 藤田 宗久
細谷 通夫, 前田 明, 増井 隆, 升野 勝之, 松井 和則, 見上 真美, 三森 文行, 宗像 利明
森川 安理, 横山 泰

【生物化学】 18名

飯田 秀利, 内山 豊, 小野 高明, 小原 正雄, 杉山健一郎, 助永 義和, 高市 真一, 中野 明彦
中山 孝, 成瀬 英典, 林 秀則, 東島 勉, 日和佐隆樹, 三隅 昌朗, 宮島 篤, 山脇有里子
横田 崇, 横山 茂之

【動物学】 6名

江島 洋介, 小倉 明彦, 教野 順子, 平良 真規, 福田珠美子, 山口 和彦

【植物学】 4名

門田 明雄, 竹内 裕一, 都筑 幹夫, 丹生谷 博

【人類学】 3名

岩柳千鶴子, 植田信太郎, 高山 博

【地質学】 7名

岡田 豊, 古字田亮一, 小坂 和夫, 柵山 雅則, 箕輪 英雄, 本村 真澄, 矢島 道子

【鉱物学】 4名

井上 厚行, 佐々木信行, 留岡 和重, 村上 隆

【地理学】 3名

池田 安隆, 遠藤 幸子, 斎藤 亨治

【相関理化学】 17名

相原 正博, 有光 直子, 伊藤 達夫, 今居 和男, 内田 勉, 大野 茂男, 岡 秀樹, 梶川 雄二
桑原 輝隆, 小池 裕幸, 今野 雅啓, 高柳 英明, 徳田 伸二, 仲井 雅光, 花城 宏明, 山岡 隆
山本 和久

【科学史・科学基礎論】 6名

木原 英逸, 佐藤 徹, 下坂 英, 杉山 滋郎, 田村 保子, 山本 新

理学博士学位授与者

昭和52年3月14日付授与者 (21名)

専門課程	氏名	論文題目
物理学	神永 真朗	点接触型ジョセフソン素子の特性
同	小林 克己	In Vivo Photodynamic 作用の初期過程
同	瀬川 新一	温度ジャンプ法による溶液中のリゾチーム分子の動的状態の研究
天文学	岡村 定矩	電子計算機による銀河の表面測定
地球物理学	松村 正三	MTOF法による下部熱圏中性大気温度のロケット観測

専門課程	氏名	論文題目
生物化学	星野 稔	テトラヒメナ繊毛ダイニンの研究
地理学	三上 岳彦	北半球における気候変動の地域差に関する動気候学的研究
相関理化学	飯淵 千春	大豆貯蔵タンパク質 7 S グロブリンに関する研究
同	武田 裕行	電気伝導法による非水溶液中の 1 価のイオンの挙動およびジベンゾ-18-クラウン-6 と各アルカリ金属イオンとの錯体生成に関する研究
同	石井 哲郎	細菌ウイルス T ₄ 頭殻の構造形成
学位規則第3条2項該当	荘 司 準	極低濃度アンチモン(Ⅲ)の溶液化学
同	藤原 祺多夫	原子吸光法における原子化機構
同	岩田 深雪	遷移金属錯体結晶中の電子密度分布の精密測定
同	井上 望	白金中の遷移金属不純物効果
同	酒井 純	大きな超微細分裂を有する分子の赤外レーザー分光
同	酒井 文雄	因子の補集合の小平次元
同	佐藤 八十八	ヒマ種子の NADP ⁺ -イソクエン酸脱水素酵素
同	植月 正雄	磁気共鳴による Ziegler-Natta 触媒系錯体の研究
同	加藤 美恵子	アズキ cutting における不定根形成過程の解析
同	加藤 洋一	分化した軟骨細胞の組織培養下における化学発癌ならびに軟骨クローン
同	大竹 正之	ヘテロポリ酸の触媒作用に関する研究

昭和52年3月29日付博士課程修了者(78名)

専門課程	氏名	論文題目
物理学	麻田 進	遷移金属化合物における内殻励起スペクトル
同	天川 博隆	非弾性散乱における二段過程と有効相互作用
同	池添 博	ガス中での ¹³⁸ Ba の 6+ 状態の核磁気能率の測定
同	岡村 昇一	磁気中性点放電の研究及びその高温プラズマインジェクタへの応用
同	小川 和男	250MeV から 800MeV に於ける重陽子光分解反応の解析
同	小野 義正	超流動ヘリウム 3 の B 相での粘性率
同	神谷 幸秀	回転ガス雲の収縮
同	川端 節弥	重陽子光分解反応に於ける陽子の偏極度測定
同	岸本 直樹	アモルファス Si-Au 系の金属・非金属転移の研究
同	佐野 理	二平面壁で囲まれた粘性流体中に於ける微小球の運動
同	須藤 滋	磁場中におけるレーザー生成プラズマの熱化と流れ
同	高河原 俊秀	二次光学過程における緩和の統計力学的理論
同	高幣 謙一郎	TlCl-TlBr 混晶系の光学的研究
同	田中 充	³ He- ⁴ He 系のラムダ線近傍における輸送系数
同	東崎 健一	⁴ He のラムダ点近傍に於ける超音波減衰
同	仁木 清	剛体球流体中における衝撃波面構造の分子動力的研究
同	西田 信彦	磁性金属中の正ミュー中間子の内部磁場と緩和時間
同	野口 修一	原子核からの荷電 π 中間子光発生の実験的研究
同	広瀬 宜郎	キイロシヨウジョウバエ致死遺伝子の発生学的研究
同	福田 共和	重イオンによる融合反応の研究

専門課程	氏名	論文題目
物理学	布施元正	乱流プラズマからの輻射理論とその応用 一線型及び非線型過程一
同	馬越健次	遍歴電子系におけるらせんスピン構造の理論
同	舛本泰章	CdS の共鳴ラマン散乱に於ける偏光特性
同	村田恵三	二次元超伝導における前駆反磁性
同	本林透	軽い原子核(1Pおよび2S-1 α 殻)の間での α 粒子移行反応の研究
同	吉岡大二郎	強磁場中の半金属の一次相転位
同	和田純夫	e^+e^- 消滅・ eN 散乱のパートン模型による解析
同	家正則	円盤状銀河の大局的動力学不安定性
同	岡崎彰	近接連星小獅子座T星及び鯨座XY星の研究
同	高田昌英	二つのO型超巨星, 麒麟座 α 星とケフェウス座19番星の分光学的研究: モデル大気分析
同	DINH QUOC VUONG	太陽フレアのスペクトル解析
同	出口修至	水メーザーと赤外線星の外層
同	三上孝雄	太陽近傍のM型星の運動学的パラメーターと絶対等級
地球物理学	伊藤純一	自然地震の発生限界領域
同	杉浦直治	石質隕石の自然残留磁化の起源について
同	野村雅史	海洋地域のデータより求められた中波長の地磁気異常とその地球物理学的意義
同	山本隆	磁気圏内の波動 一粒子非線型相互作用
同	渡辺秀文	地球磁場生成過程としての乱流ダイナモ
化学	石井文雄	ジチオールチオン類およびその関連化合物とエナミンの反応
同	井本英夫	金属化合物 一水素系に関する研究一
同	植弘崇嗣	EDTAおよびその関連化合物の金属錯体の研究
同	木下修一	X線光電子分光法におけるマルチチャンネル検出方式とその応用
同	榊原正明	回転移性とその赤外ラマンスペクトルにおけるキーバンドの研究
同	猿渡雄彦	機器分析の精度向上に関する研究 一精密化学測定のためのオンライン計測システムの製作とその応用一
同	塩野万蔵	低原子価チタン化合物およびZ-ハロピリジニウム塩を用いる合成反応の研究
同	新谷英樹	(\rightarrow) $589-[CO(R-Pn)_3]Br_3$ の電子密度分布 一X線および中性子回折による研究一
同	鈴木薫	アルゴン残光反応により生成する二原子ラジカルの発光スペクトル
同	立松節子	シアン化物の光解離によって生成される $CN(B^2\Sigma)$ の発光スペクトル
同	通元夫	シオナンおよびフリーゼラン誘導体の骨格転移反応およびダマラン誘導体の反応
同	鳥海幸四郎	遷移金属錯体の電子密度分布
同	西保夫	有機溶媒中における金属錯体のホットアトム化学および光化学
同	仁藤修	核反応によるマグネシウム同位体の生成
同	藤川高志	気相分子のX線光電子スペクトル
生物化学	伊井一夫	ウニ卵のグルタチオン還元酵素の研究
同	小松みづほ	光リン酸化反応の研究 一基質とその葉緑体チラコイド膜への結合一

専門課程	氏名	論文題目
生物化学	斎藤春雄	大腸菌フェージ入のDNA複製に関する研究
同	長田重一	ポリペプチド鎖延長因子1, EF-1の精製と機能
動物学	岡村直道	ラット肝および腹水肝 細胞膜におけるエビネクリンおよびプロスタグランジンEレセプター, アデニルシクラーゼ系の研究
同	菊田彰夫	様々な薬剤による培養白血病細胞(L5178Y)の細胞死の形態学的比較研究
同	西駕秀俊	クロマチンの活性調節における酸性ムコ多糖の関与に関する研究
同	西駕鷹子	ラット正常卵巣および脾臓内移植卵巣の内分泌学的研究
同	高井哲史	ラット脳線条体及び視床下部由来の神経終末粒子におけるドーパミン能動輸送系の解析
同	野沢昭典	ウニ卵発生における硫酸イオン活性化酵素系
同	野中勝	ウニ未受精卵チミジンキナーゼの受精に伴う活性化機構
植物学	鈴木正彦	タバコ葉肉細胞プロトプラストにおけるバクテリオフェージDNAおよびポリスチレン球の取りこみ
地質学	服部恵子	流体包有物の水素同位体比からみた第3紀鉍液の起源ならびに性質
同	横山一己	三波川帯中の超塩基性岩とそれに付随する岩石について
鉱物学	青木正博	Wairakiteの鉱物学および地球化学的研究
同	今西康弘	CaSiO_3 - $\text{CaFeSi}_2\text{O}_6$ 系の相平衡関係及び(Ca 0.82, Fe 0.18) SiO_3 組成 ferrobustamite の分解相転移過程
相関理化学	宇佐美俊郎	MnOの光伝導機構
同	児島邦公	固体, 液体のカリウム及びスズの光学的性質
同	奥野誠	ペン毛運動の機構に関する研究
同	熊谷泉	<i>Aspergillus niger</i> Var. <i>macrosporus</i> '由来の酸性カルポキシペプチダーゼの生化学的研究
同	佐野清	ウニ胚の分化に伴う細胞表面の変化
同	中野徹	ポリアミン要求ヌクレアーゼについて
同	松井悦郎	ロジウム錯体によるジエンのミセル系重合における活性種に関する研究
同	湊孝夫	相互作用のある時と無い時の高分子鎖の分布関数
同	宮島静夫	正作用素の分解

職員永年勤続者表彰

昭和52年度の東京大学永年勤続者(20年以上)として, 理学部では下記7氏が表彰された。

記

藤田昌子氏 (数学)
 長沢勝明氏 (物理)
 中島孝三氏 (化学)
 矢萩薫氏 (植物)
 梅沢浩平氏 (地質)
 伊藤義治氏 (植物園)
 吉田栄氏 (地球施)

感謝状の贈呈

4月12日現在理学部に在職し, 本学での勤続が30年を超える職員(教官を除く)に対し, 学部長から感謝状ならびに記念品が贈呈された。該当者は下記19氏である。

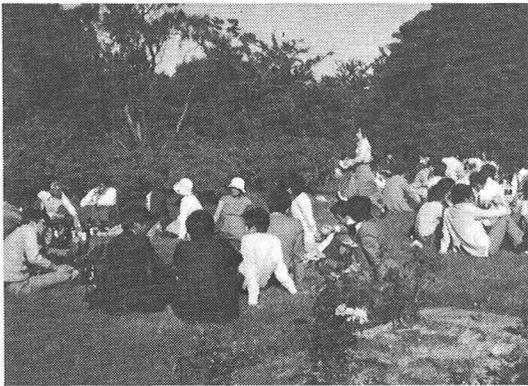
記

荒井正彦氏(物理) 友田幸子氏(地物)
 宮川正氏(物理) 仲野喜美子氏(地物)
 磯田幸子氏(天文) 中田賢次氏(化学)
 小野昇氏(地物) 西貝正明氏(生化)

松田 弘明氏(植物) 杉森 政雄氏(中央)
黒沢 幸子氏(植物) 奈良 利男氏(中央)
市川 健 氏(地質) 滝沢 竜夫氏(中央)
市原 正氏(地質) 星 圭介氏(中央)
久保田一子氏(臨海) 久我 正弘氏(中央)
吉野 誠治氏(中央)

理学部職員学生懇親会

5月16日(月)午後3時より恒例のピヤパーティーが小石川の附属植物園でひらかれた。当日は快晴にめぐまれ約500余名の職員,学生の参加があり盛況のうちに進行,午後5時頃散会した。



編集後記

最近原稿をお願いしても,仲々すぐには書いて頂けないことが多くなりました。是非皆様方のご協力をお願いする次第です。(T)

なお,前号の東京大学附近の地形図に年を入れておりませんでした,明治17年測量のものでした。(S)

編集:

(木下 清一郎(動物) 内線3361)
(鈴木 秀夫(地理) 内線3288)
(田 隅 三生(化学) 内線3148)